



South West Pacific Longline Caught Albacore: Going, Going, Gone?

Prepared for the Western and Central Pacific Fisheries
Commission Meeting. Guam, March 25-29th 2012.

South West Pacific Longline Caught Albacore: Going, Going, Gone? Prepared for the Western and Central Pacific Fisheries Commission Meeting. Guam, March 25-29th 2012.

要旨：仮訳

WWF（世界自然保護基金）は、太平洋の島嶼国による自国 200 海里内におけるマグロ類漁業生産の増強に関する正当な権利について、これを認めている。しかし、これら島嶼国内における中国および台湾による延縄漁業船の急速な増加について、WWF は大きな懸念を抱いている。

南太平洋でのビンナガ漁獲量についてみると、中国および台湾による漁獲は、2000 年の 2 万 4,000 トンから 2004 年に 5 万 4,000 トンに増加し、結果 2010 年には南太平洋全体で約 7 万 5,000 トンまで増加した。

こうした漁獲量の増加は、主に約 300 隻を数える中国、台湾を旗国とする登録漁船によって生産されたものだが、さらに 300 隻以上のチャーター船やソロモン諸島、バヌアツ、マーシャル諸島、ミクロネシア連邦、フィジー、クック諸島、パプアニューギニア、そしてキリバスに置籍転換した漁船がこの海域でのビンナガ漁業に参画している。

中国や台湾による操業の増加は、両国におけるより効率のよい漁船建造戦略や、経済的インセンティブおよび海賊船の影響によってインド洋から漁場を移さざるを得なくなったことが背景にあると考えられている。

こうした漁船は、太平洋島嶼国に落ち着くとともに、公海における操業も増加させており、結果中西部太平洋における漁獲の約半分を占めるに至っている。

本漁業における努力量の増加は、地域的に成熟個体群の減少を引き起こし、さらに南緯 20 度以南における全体的な努力量増加と来遊小型魚の減少といったバイオマスの減少を招きつつあり、個体群は MSY（最大持続可能生産の値に急速に近づきつつある。これを裏付けるように、ビンナガの漁獲死亡率増加を受け、操業する漁船の単位努力量当たりの漁獲量（CPUE）は著しく減少している。WCPFC（中西部太平洋まぐろ類委員会）とその管理措置である CMM2005 - 2（2010 年に改定）による南太平洋ビンナガ個体群の保全効果は、科学者によると資源状況は生物学的許容範囲内にあるとされているものの、現状を考慮すると疑問も生じている。

南太平洋におけるビンナガ漁業船の隻数増加は、主要対象であるビンナガだけではなく、メバチやキハダといった漁獲対象にも顕著な影響を与えていると考えられる。

日本と韓国による延縄漁業の減船の努力と成果も、中国や台湾による生産増加によってその効果が薄れる可能性もある。延縄漁船の増加は、また、サメ類の混獲の増加につながり、種によっては、急速な減少傾向を示すものもある。同様に、延縄漁業のウミガメや海鳥の混獲影響についても継続的なモニタリングが求められる。

繰り返しとなるが、SIDS（発展途上島嶼国）による正当な権利については、WWF は全面的な支持をしており、島嶼国水域内における漁業の発展は、確実に責任ある持続可能な法的枠組みに則ることが望ましいと考える。

一方、確証は得られていないものの、中西部太平洋島嶼国における漁船への過剰許可という問題も生じている可能性も指摘されている。

WWF は、南太平洋漁業機構（FFA）、Te Vaka Moana（TVM）とその加盟国、またナウル協定（PNA）、The Melanesian Spearhead Group（MSG）、そしてそのほかの南太平洋ビンナガ延縄漁業と当該漁業によって生じる混獲問題において、漁業管理強化を求める関係者を支持する。WWF は本漁業における実効性のある隻数制限と努力量規制が、WCPFC および、この海域の沿岸漁業国によって導入されることを早急に求める。

■全文（英語）はこちら

South West Pacific Longline Caught Albacore: Going, Going, Gone?

<http://www.wwf.or.jp/activities/upfiles/WWF20120325SPA-PolicyBrief.pdf>